

四旬節  
LENT

Caritas Japan カリタスジャパン

2022

たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、  
時が来て、実を刈り取ることになります。(ガラテヤ6・9)

## 四旬節「愛の献金」趣意書

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたこの2年間、世界はいのちを守るためにもがき続けています。いのちを守るための選択は、残念なことに、共に集まること、人と出会うことを制限し、孤独と孤立が深まっています。

暗闇に取り残されているかのような世界の状況を目の当たりにして、教皇フランシスコは、連帯を呼びかけます。互いに支え合い、歩みをともにすることにのみ、この危機的状況から抜け出す道があると強調する教皇は、格差が拡大し、排除される人、忘れ去られる人が増大している現実には警鐘を鳴らし、誰ひとりとして取り残されることのない世界の実現を、繰り返し呼びかけておられます。

教会は今、2023年秋に開催される世界代表司教会議を目指して、ともに歩む教会であろうと努めています。教会は、神のいつくしみを具体的に生き、排除するのではなく互いに支え合い、優しさの内に連帯を促す存在として、暗闇に輝く希望の光になりたいと思います。

四旬節は、御父のもとに立ち返る回心の時です。教会の伝統は、四旬節において「祈りと節制と愛の業」という三点をもって、信仰を見つめ直すよう呼びかけています。四旬節の献金は、教会共

## 2021年 四旬節献金総額

Amount of total 2021 Lenten Collection

68,240,599 円

### 主な援助先

(円/Yen)

キルギス Kyrgyzstan カリタスキルギス組織強化支援	1,292,300
カンボジア Cambodia 人身取引・性虐待・DV被害者のスキルトレーニング支援	3,264,600
エルサレム Jerusalem 医療・社会サービス支援	2,179,600
南部アフリカ Southern Africa ボツワナ・南アフリカ・エスワティニ・ナミビアにおける組織強化支援	2,200,400
パキスタン Pakistan 強制退去命令を受けた人々への緊急・復興支援	1,677,482
モンゴル Mongolia 組織運営財政支援	2,755,500
ラオス Laos 組織開発と能力強化を通じたカリタス設立支援	1,095,400

同体の愛の業です。この四十日の間、支え合う心をもって献金にご協力くださいますよう、お願いいたします。

緊急災害援助にとどまらず、国内外において「いのち」の危機に直面している人々の支援、また途上国での少数民族の子どもたちの教育支援や女性の自立支援などのために、四旬節献金は重要です。カリタスジャパンが行う支援は、もちろん皆様の募金に支えられていますが、毎年の支援の三分の一が、この四旬節献金によって支えられております。

今年の四旬節、困難の暗闇の中で輝く希望の光をともしることが出来るように、教会の愛の活動をご理解くださり、わたしたち自身の歩みを振り返り、愛の心をわかちあうために、四旬節献金にご協力下さい。

2022年3月2日 灰の水曜日  
カリタスジャパン責任司教 タルチシオ 菊地 功  
担当司教 パウロ 成井大介

今年の四旬節小冊子は、四旬節「愛の献金」趣意書、2021年度四旬節献金報告、教皇メッセージ（四旬節福音箇所カレンダー）、2022年4月から2023年3月までのカレンダーとなっています。カレンダーの使用写真は、カリタスの支援先関連の写真（視察写真含む）を用いており、皆様からの献金による援助先ならびにカリタスの活動の紹介となっています。

In this year's Lenten Booklet outlines the meaning of the theme, Lenten donation report of the year 2021 and the message of the Holy Father. It is in the form of Calendar that starts from April of 2022 to March 2023. The calendar highlights pictures that introduce Caritas related activities of support and where your donation goes.

イラク Iraq 2,199,000  
紛争後の社会の再構築を目指した女性・子ども・若者支援

国際カリタス Caritas Internationalis  
緊急支援要請 (22件) 20,918,700

(2021年12月15日現在)

四旬節献金では、国内外で社会から疎外され、困難な生活を送っている人たちが自分たちの力で生きていくことができるための支援を行っています。

Your Lenten contribution is essential not only for emergency disaster relief, but also for development assistance here and abroad.

Caritas Japan's activities are supported by your donations throughout the year, and one-third of that annual support comes through this Lenten collection.

2/ 27日  
Sun

## 2022年四旬節 教皇メッセージ

「たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、善を行いましょう」

(ガラテヤ 6・9-10a)



©CBCJ

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

四旬節は、わたしたちが個人としても共同体としても新しくなり、死んで復活されたイエス・キリストの過越に導かれていくのにふさわしい時です。2022年の四旬節の旅路を歩むにあたって、聖パウロのガラテヤの信徒たちへの勧めについて考えてみるとよいでしょう。「たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。ですから、今、時（カイロス）のある間に、すべての人に対して、善を行いましょう」（ガラテヤ 6・9-10a）

### 1. 種蒔きと刈り取り

使徒はこの箇所、イエスが好んで用いられた種蒔きと刈り取りのたとえ（マ

ルカ Lk 6・39-45

マルコ Mk 10・17-27

マルコ Mk 10・28-31

灰の水曜日（大齋・小齋）

Ash Wednesday

四旬節愛の献金（四旬節中）

Lenten Love Collection (During Lent)

マタイ Mt 6・1-6, 16-18

ルカ Lk 9・22-25

マタイ Mt 9・14-15

ルカ Lk 5・27-32

28月  
Mon

3/ 1  
火  
Tue

2  
水  
Wed

3  
木  
Thu

4  
金  
Fri

5  
土  
Sat

四旬節第 1 主日  
First Sunday of Lent

ルカ Lk 4・1-13

6 日  
Sun

マタイ Mt 25・31-46

7 月  
Mon

マタイ Mt 6・7-15

8 火  
Tue

ルカ Lk 11・29-32

9 水  
Wed

マタイ Mt 7・7-12

10 木  
Thu

マタイ Mt 5・20-26

11 金  
Fri

マタイ Mt 5・43-48

12 土  
Sat

タイ 13 章参照) を用いています。聖パウロは <sup>カイロス</sup>καίρος<sup>1</sup> について、つまり収穫を  
考えてよい種を蒔くのに適した時について語ります。わたしたちにとって、ふ  
さわしい時とはいつのことなのでしょう。間違いなく、それは四旬節です。  
ただ、四旬節がある意味象徴している、地上での人生全体<sup>1</sup> もまたその時なの  
です。わたしたちの生活では、貪欲と高慢が度を超してはびこっています。た  
くさん所有して、蓄えて、消費したい欲望が支配的で、福音書のたとえに出て  
くる、豊作で得た作物を倉にたくさん貯め込んでいるから暮らしは安泰で上々  
だと考えている、愚かな金持ちのようです (ルカ 12・16-21 参照)。四旬節は  
わたしたちを回心へと、考え方を改めることへと招きます。それによって人生は、  
本来の真理と美しさを得るでしょう。所有するのではなく与えることが、蓄え  
るのではなくよい種を蒔いて分かち合うことが、できるようになるのです。

主役の農夫は、神ご自身です。惜しみなく、「人類によい種を蒔き続けておら  
れる」(回勅『兄弟の皆さん』54) かたです。四旬節の間わたしたちは、「生き  
ており、力を発揮する」(ヘブライ 4・12) みことばを受け入れることで、神か  
らのたまものにこたえるよう招かれています。神のことばを熱心に聞くことで、  
喜んでみことばを行う従順さ (ヤコブ 1・21 参照) が習熟し、わたしたちの人  
生は実り多いものとなるのです。わたしたちがこのことに喜びを覚えるなら、「神  
のために力を合わせて働く者」(一コリント 3・9) になるよう、今という時をよ  
く用い (エフェソ 5・16)、よい行いを通してわたしたちもまた種を蒔くよう、  
召される喜びはさらに大きなものとなります。よい種を蒔くようにとのこの招

<sup>1</sup> 聖アウグスティヌス『説教』(Sermo 243, 9, 8 ; 270, 3)、『詩編注解』(Enarrationes in Psalmos 110, 1) 参照。

きは、重荷としてではなく、恵みとして捉えられるべきです。この恵みによって、創造主はわたしたちに、実りをもたらすご自分の忍耐強さに積極的に結ばれてほしいと願っておられます。

ルカ Lk 9・28b-36

それでは、刈り取りはどうでしょうか。種蒔きは、収穫を目指してのものではないでしょうか。当然です。種蒔きと収穫の強い結びつきは、聖パウロその人によって繰り返し説かれています。パウロはこう断言します。「惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです」(二コリント 9・6)。けれども、どんな収穫のことをいっているのでしょうか。よい種蒔きによる初穂は、わたしたち自身のうちに、わたしたちの日々のかかわりのうちにあり、ささやかなよい行いのうちにもあります。神から見れば、愛の行為は、どんなにささやかでも、そしてどんな「惜しめない努力」も、決して無になるものではありません(使徒的勧告『福音の喜び』279 参照)。木はその実によって見分けられるように(マタイ 7・16、20 参照)、よい行いに満ちた人生は光り輝き(マタイ 5・14-16 参照)、キリストの香りを世にもたらしめます(二コリント 2・15 参照)。罪から解放されて神に仕えることで、すべての人の救いのための聖化の実は熟すのです(ローマ 6・22 参照)。

ルカ Lk 6・36-38

マタイ Mt 23・1-12

マタイ Mt 20・17-28

ヨハネ Jn 19・25-27

福音書の格言に「一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる」(ヨハネ 4・37)とあるように、実際にわたしたちは、自分の蒔いた実りのほんの一部しか見ることはできません。まさに他の人のために種を蒔くことで、わたしたちは神の忍耐強さをもてるようになります。「蒔かれた善の秘められた力に希望をおき、成果は他の人に収穫されるプロセスに着手できるのは、真の高潔さです」(回勅『兄

性虐待被害者のための祈りと償いの日  
Day of prayer and penance for the  
victims of sexual abuses  
マタイ Mt 21・33-43, 45-46

聖ヨセフ  
Saint Joseph

マタイ Mt 1・16, 18-21, 24a

弟の皆さん』196)。他の人のためにより種を蒔くことは、個人の利益だけを考  
える狭量な論理からわたしたちを解放し、行動に無償性ゆえの悠然とした大ら  
かさを与えてくれます。そうしてわたしたちは、神のいつくしみ深い計画の、  
すばらしい展望に加わるのです。

神のことは、わたしたちの視界をさらに広げ、高めてくれます。それは、  
まさに真の収穫とは、終末の時に、最後の日に、沈むことのない太陽が輝く日  
に行われる収穫であると、わたしたちに告げるものです。わたしたちの生活と  
わたしたちの行動によって結実するのは、「永遠のいのちに至る実」（ヨハネ 4・  
36）であり、わたしたちの「天の富」（ルカ 12・33、18・22 参照）となるもの  
です。イエスご自身、地に落ちて死に、実を結ぶ種のとえを用いて、ご自分  
の死と復活の神秘を表現しておられます（ヨハネ 12・24 参照）。そして聖パウ  
ロは、わたしたちのからだの復活について説くために、再びこのたとえを取り  
上げます。「蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、蒔かれる  
ときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、  
強いものに復活するのです。つまり自然のいのちのからだ蒔かれて、霊のから  
だが復活するのです」（一コリント 15・42-44）。この希望は、復活されたキ  
リストが世にもたらしてくださる大いなる光です。「この世の生活でキリストに  
望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中でもっとも惨  
めな者です。しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人  
たちの初穂となりました」（一コリント 15・19-20）。それは、「その死の姿にあ  
やか」り（ローマ 6・5）、愛のうちに主と固く結ばれた者が、永遠のいのちを受  
ける（ヨハネ 5・29 参照）ために、その復活にも結ばれるようになるためです。

#### 四旬節第 3 主日 Third Sunday of Lent

ルカ Lk 13・1-9

20日  
Sun

春分の日

21月  
Mon

ルカ Lk 4・24-30

22火  
Tue

マタイ Mt 18・21-35

23水  
Wed

マタイ Mt 5・17-19

24木  
Thu

ルカ Lk 11・14-23

#### 神のお告げ The Annunciation of the Lord

ルカ Lk 1・26-38

25金  
Fri

ルカ Lk 18・9-14

26土  
Sat

「そのとき、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く」(マタイ 13・43)

ルカ Lk 15・1-3, 11-32

## 2. 「たゆまず善を行いましょう」

キリストの復活は、永遠のいのちという「大いなる希望」によって地上の希望を強め、すでに今現在に、救いの萌芽をもたらしています(ベネディクト 16 世回勅『希望による救い』3,7 参照)。多くの夢が破れてつらい失望に沈むとき、迫り来る難題を前に不安に襲われるとき、乏しい手立てで失意に暮れるとき、そこで頭をもたげる誘惑は、個人主義的な己のエゴイズムに閉じこもろう、他者の苦しみに無関心を決め込もうというものです。実際のところ、最善の方策にも限界はあります。「若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れよう」(イザヤ 40・30)。けれども神は、「疲れた者に力を与え、勢いを失っている者に大きな力を与えられる。……主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない」(イザヤ 40・29, 31)。四旬節は、わたしたちの信仰と希望を主に置くよう呼びかけています(一ペトロ 1・21 参照)。わたしたちは、復活されたイエス・キリストを見つめること(ヘブライ 12・2 参照)によってのみ、「たゆまず善を行いましょう」(ガラテヤ 6・9)という使徒の勧めを受け入れることができるからです。

たゆまず祈りましょう。イエスは、「気を落とさずにたえず祈らなければならない」(ルカ 18・1)と教えておられます。わたしたちは祈る必要があります。神が必要だからです。自分たちだけでやっていけると考えることは、危険な思い違いです。パンデミックによって、個人としての、そして社会としての弱さを実際に確認させられたのであれば、この四旬節はわたしたちに、神への信仰

ヨハネ Jn 4・43-54

28 月  
Mon

ヨハネ Jn 5・1-3a, 5-16

29 火  
Tue

ヨハネ Jn 5・17-30

30 水  
Wed

ヨハネ Jn 5・31-47

31 木  
Thu

ヨハネ Jn 7・1-2, 10, 25-30

4/ 1 金  
Fri

ヨハネ Jn 7・40-53

2 土  
Sat

の慰めを経験させてくれます。信仰なしには確かさを得ることはできません(イザヤ7・9 参照)。わたしたちは歴史の荒波にあって皆で同じ舟に乗っているのですから、だれも独りでは救われません<sup>2</sup>。そして何より、神なしに救われる人はいません。イエス・キリストの過越の神秘のみが、死の暗い霧雲に勝利するからです。信仰があれば人生の苦悩を免れることができるわけではありませんが、キリストのうちに神と結ばれ、挫かれることのない大なる希望——それをあかしするのは、神が聖霊を通してわたしたちの心に注いでくださった愛です——をもって苦難をくぐり抜けることができます(ローマ5・1-5 参照)。

たゆまずに、わたしたちの人生から悪を一掃しましょう。四旬節がわたしたちに求める肉体的な断食は、罪との闘いのためにわたしたちの霊を強めてくれます。ゆるしと和解の秘跡によって、たゆまずゆるしを請いましょう。そうして、神はたゆむことなくゆるしてくださることを知しましょう<sup>3</sup>。たゆまずに、欲望と闘いましょう。エゴイズムやあらゆる悪を助長する弱さは、時代ごとに異なる様相で、人を罪に陥らせてきました(回勅『兄弟の皆さん』166 参照)。そうした様相の一つはデジタルメディアに依存する危険性で、それは人間関係を希薄にしまいます。四旬節は、こうしたわなと闘い、代わりに、顔と顔を合わせる「実際の出会い」(同 50)による、より完全な私たちの人間のコミュニケーション(同 43 参照)をはぐくむにふさわしい時です。

2 「新型コロナウイルスの感染拡大にあたっての特別な祈りの式でのウルビ・エト・オルビのメッセージ」参照。

3 「お告げの祈り(2013年3月17日)」参照。

## 四旬節第5主日 Fifth Sunday of Lent

ヨハネ Jn 8・1-11

3 日  
Sun

ヨハネ Jn 8・12-20

4 月  
Mon

ヨハネ Jn 8・21-30

5 火  
Tue

ヨハネ Jn 8・31-42

6 水  
Wed

ヨハネ Jn 8・51-59

7 木  
Thu

ヨハネ Jn 10・31-42

8 金  
Fri

ヨハネ Jn 11・45-56

9 土  
Sat

たゆまずに、隣人への積極的な慈善のわざによって、よい行いに励みましよう。この四旬節の間、喜んで差し出す施しを実践しましょう(二コリント9・7参照)。「種を蒔く人に種を与え、パンを糧としてお与えになる」(二コリント9・10)神は、わたしたち一人ひとりを、自分の糧を得られるようにして下さるだけでなく、他の人のために惜しみなくよい行いができるようにもして下さいます。わたしたちの人生全体が、よい種を蒔く時だというのが真であるならば、この四旬節をとりわけ好機として、そばにいる人の世話をし、人生の途上で傷ついている兄弟姉妹の隣人になりましょう(ルカ10・25-37参照)。四旬節は、苦しみのある人を守るのではなく探し出すにふさわしい時であり、耳を傾けてほしい、優しいことばをかけてほしいと願っている人を無視するのではなく招き、孤独に苦しんでいる人を見捨てるのではなく訪ねるにふさわしい時です。すべての人に対して善を行うようにとの呼びかけを実行に移しましょう。もっとも小さくされて寄る辺のない人、見捨てられ蔑まれている人、差別を受けて排斥されている人を愛するために、時間を割きましょう(回勅『兄弟の皆さん』193参照)。

### 3. 「飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることに なります」

四旬節は毎年わたしたちに思い起こさせてくれます。「善は、愛、正義、連帯と同じく、一挙に達成されるものではありません。日々勝ち取るべきものです」(『同』11)。ですから、倦むことなく一步一步善を行うことができるよう、待ち続ける農夫の忍耐強さ(ヤコブ5・7参照)を神に願いましょう。倒れたら、必ず助け起こして下さる御父に手を伸ばしてください。道に迷い、悪の誘惑に

ルカ Lk 23・1-49 △ 22・14～23・56

11月  
Mon

ヨハネ Jn 12・1-11

12火  
Tue

ヨハネ Jn 13・21-33, 36-38

13水  
Wed

マタイ Mt 26・14-25

聖木曜日(主の晩さん)  
Holy Thursday

14木  
Thu

ヨハネ Jn 13・1-15

聖金曜日(主の受難)(大斎・小斎)  
Good Friday

聖地のための献金 Good Friday  
collection for Holy Land  
ヨハネ Jn 18・1～19・42

15金  
Fri

聖土曜日/復活徹夜祭  
Holy Saturday

16土  
Sat

陥ってしまったら、「豊かにゆるしてください」（イザヤ 55・7）かたに急いで立ち帰ってください。この回心の時に、神の恵みと教会での交わりに支えを得て、たゆまずよい種を蒔きましょう。断食は地を整え、祈りは地を潤し、愛は地を実らせます。わたしたちは、「飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになる」（ガラテヤ 6・9）こと、そして忍耐のたまものによって、わたしたちと他の人の救いのために（一テモテ 4・16 参照）約束されたよいものを受けるといふこと（ヘブライ 10・36 参照）を、信仰において確信しています。すべての人に対する兄弟愛の実践によって、わたしたちのために死んでくださった（二コリント 5・14-15 参照）キリストと結ばれ、神が「すべてにおいてすべて」（一コリント 15・28）となられる天のみ国の喜びを待ち望むのです。

その胎より救い主がお生まれになられたかた、すべてを「心に納めて、思い巡ら」されたかた（ルカ 2・19）、おとめマリアに願います。わたしたちが忍耐のたまものを授かれるよう、執り成してください。わたしたちの母として寄り添ってください。そしてこの回心の時が、永遠の救いの実りをもたらすものとなりますように。

ローマ

サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂にて

2021年11月11日

トゥールの聖マルティノの記念日

フランシスコ

復活の主日 Easter Sunday of the  
Resurrection of the Lord

ルカ Lk 24・1-12 (復活徹夜祭)  
ヨハネ Jn 20・1-9 (日中)

17日  
Sun

マタイ Mt 28・8-15

18月  
Mon

ヨハネ Jn 20・11-18

19火  
Tue

ルカ Lk 24・13-35

20水  
Wed

ルカ Lk 24・35-48

21木  
Thu

ヨハネ Jn 21・1-14

22金  
Fri

マルコ Mk 16・9-15

23土  
Sat



全能の神よ、あなたは、宇宙全体の中に、そしてあなたの被造物のうちでもっとも小さいものの中におられます。

All-powerful God, you are present in the whole universe and in the smallest of your creatures.

## 2022 4 April

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
					昭和の日	

## 2022 5 May

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
1	2	3	4	5	6	7
		憲法記念日	みどりの日	こどもの日		
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	29	27	28
29	30	31				

視察写真：カリタス子どもセンターでの給食の様子、モンゴル／回勅『ラウダート・シ』私たちの地球のための祈り  
 Photo : During school lunch at Caritas Center for Children in Ulaanbaatar, Mongol / Prayer for our Earth



彼らの豊かさは、わたしたちの豊かさでもあるからです。

For their richness is also our own.

# 2022 6 June

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

# 2022 7 July

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
	海の日					
24 31	25	26	27	28	29	30

写真：農作業を手伝うアマゾンの子ども、ブラジル／使徒的勧告『愛するアマゾン』37

Photo : An Amazonian child helps with farming, Brazil ©Caritas Internationalis / Post-Synodal Apostolic Exhortation "Querida Amazonia" 37



涙と共に種を蒔く人は喜びの歌と共に刈り入れる。  
種の袋を背負い、泣きながら出ていった人は束ねた穂を背負い、喜びの歌を歌いながら帰ってくる。

Those who sow in tears will reap with cries of joy.  
Those who go forth weeping, carrying sacks of seed, Will return with cries of joy.

# 2022 8 August

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11 山の日	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

# 2022 9 September

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19 敬老の日	20	21	22	23 秋分の日	24
25	26	27	28	29	30	

写真：難民キャンプでの水くみ、南スーダン／詩編 126 編 5-6 節

Photo : Collecting water in the South Sudan refugee camp © Caritas Internationalis / Ps126 · 5-6



けがした人の一つ一つの傷にサマリアの旅人が払ったと同じ気遣いをもって、一つ一つ足元から始めて、具体的な地元のもののため、ひいては祖国と世界の隅々のために闘うことは可能です。

We can start from below and, case by case, act at the most concrete and local levels, and then expand to the farthest reaches of our countries and our world, with the same care and concern that the Samaritan showed for each of the wounded man's injuries.

# 2022 10 October

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
	スポーツの日					
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

# 2022 11 November

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
		1	2	3	4	5
				文化の日		
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
			勤労感謝の日			
27	28	29	30			

視察写真：ロバの支給を受けた親子、エチオピア／回勅『兄弟の皆さん』78

Photo : Ethiopian mother and daughter provided with a donkey / The Encyclical "Fratelli tutti" 78



会って、助け合うには、対話が必要です。

If we want to encounter and help one another, we have to dialogue.

# 2022 12 December

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

# 2023 1 January

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
1	2	3	4	5	6	7
元日	振替休日					
8	9	10	11	12	13	14
	成人の日					
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

写真：アートクラスで表現するシリア難民の子どもたち、トルコ／回勅『兄弟の皆さん』198

Photo : Syrian children expressing themselves through arts in an art class in Turkey © Caritas Internationalis / The Encyclical "Fratelli tutti" 198

# Volunteer Bases of Catholic Church



私たちは聖堂から出ていく教会になりたいのです。いのちに寄り添い、希望を支え、一致のしるしとなるために、…橋を架け、壁を壊し、和解の種をまくためにです。

We want to be a Church that goes forth from its places of worship, in order to accompany life, to sustain hope, to be the sign of unity...to build bridges, to break down walls, to sow seeds of reconciliation.

## 2023 2 February

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
						建国記念の日
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
			灰の水曜日	天皇誕生日		
26	27	28				

## 2023 3 March

日 Sun	月 Mon	火 Tue	水 Wed	木 Thu	金 Fri	土 Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
				春分の日		
26	27	28	29	30	31	

写真：教皇の日本司牧訪問 東日本大震災被災者との集い／回勅『兄弟の皆さん』276

Photo : Gathering with the survivors of the Great East Japan Earthquake during Pope's pastoral visit to Japan © CBCJ / The Encyclical "Fratelli tutti" 276

事前に当協議会事務局に連絡することを条件に、通常の印刷物を読めない、視覚障がい者その他の人のために、録音または拡大による複製を許諾する。ただし、営利を目的とするものは除く。なお、点字による複製は著作権法第37条第1項によりいっさい自由である。

この小冊子は点訳・録音テープの作成をロゴス点字図書館にお願いしています。2010年1月1日より著作権法が改正され、これまで視覚障がい者のみに貸し出されていた点字図書館の録音図書（テープ・CD）が高齢、病気などの理由で活字の本を読むことが困難な人にも貸し出されることになりました。ご希望の方はロゴス点字図書館（電話：03-5632-4428）までお問い合わせ下さい。

## 四旬節キャンペーン小冊子 2022年

---

2022年3月2日 発行 ©カトリック中央協議会 2022年

編集 カリタスジャパン

発行 カトリック中央協議会

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10

日本カトリック会館内 電話 03-5632-4411

カリタスジャパン 電話 03-5632-4439（直通） FAX 03-5632-4464

E-mail [info@caritas.jp](mailto:info@caritas.jp) URL <https://www.caritas.jp/>

---

印刷 株式会社 双文社印刷

聖句：日本聖書協会『新共同訳』 Biblical Quotations: "New American Bible (Revised Edition)" © 2019-2020 USCCB

表紙写真：つくったインジェラを子どもたちに分ける母、エチオピア Cover Photo: A woman serves a meal of injera to her children, Ethiopia © Caritas Internationalis